

禅隆寺にて 紅葉の頃

古い山門に葵の御紋の門帳が架けられているお寺があり、中を覗いてみると燃えるような紅葉や、手入れの行き届いた苔庭が目に入ったので中に入ってみました。

中では多くの人々が紅葉狩りを楽しんでおられ、寺の方もお見えになりましたので色々お話を聞くことができました。臨済宗妙心寺派の寺院で山号を宗興山と言うそうです。

山門には掲げられた山号額は江戸中期、西の仙厓東の白隠と言われた高僧白隠禅師の筆、また、葵の紋は尾張徳川家8,9代藩主の生母の菩提寺になっているため、許されて使用しているとのことでした。



名古屋の礎を築いた、犬山城主平岩主計頭親吉の実弟である

ごっさん
元山甫隠和尚が徳川義直から寺地を賜り元和9年清須から観音堂を移して建立し開山となったそうです。

観音堂の格天井には「織田木瓜紋」が書かれて、織田家に関する建物と考えられます。



観音堂の格天井



苔庭は本堂から見るように作られているとのこと、さっそく階段に腰掛け眺めてみました。



階段から見た苔庭



五重の塔

庫裏の前の五重の塔は古いもので、元々は七重の塔だったものをバランス良くするため現在は五重の塔にされたそうです。新緑の時も楽しみです。

禅隆寺：名古屋市東区飯田町 36 番地
市バス「飯田町」下車すぐ前
(幹名駅1「上飯田」行)、栄14「上飯田」行)
参考文献 清須越 一大都市名古屋の原点—
清須越 400 年事業ネットワーク 編著

(かつみ)